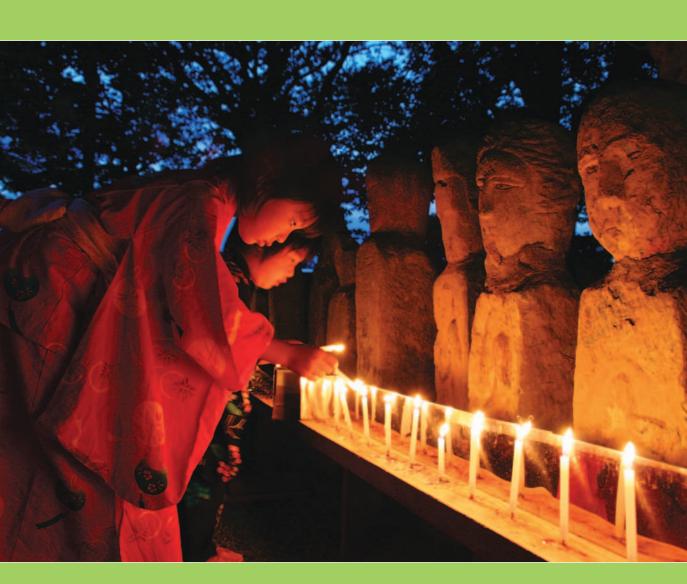
日本協防



- 東日本大震災全国消防団報告研修会開催
- 女性消防団員リーダー会議開催

日本消防 CONTENTS



□ 絵 東日本大震災全国消防団報告研修会を開催 (財) 日本消防協会 女性消防団員リーダー会議の内容について (財) 日本消防協会 新潟県消防協会に災害対策支援金を交付 (財) 日本消防協会 巻頭言 災害のないまちづくりを目指して ……………山形県消防協会 副会長 寒河江 輝文 ……1 東日本大震災全国消防団 報告研修会を開催しました ………………………………………………2 「消防団員の処遇改善など活動環境の整備について(要望)」を国に対し要望しました ······4 東日本大震災災害活動報告 …………………青森県 八戸市消防団 団長 藤田 正次郎 ……5 東日本大震災災害活動報告 …………………若手県大船渡市消防団 団長 今野 武義 ……7 東日本大震災災害活動報告 …………………宮城県七ヶ浜町消防団 団長 渡邊 初男 ……9 東日本大震災災害活動報告 ………………………福島県双葉町消防団 団長 高野 豊実 …11 ラジオ番組「おはよう!ニッポン全国消防団」片山善博 総務大臣・松本 龍 防災担当大臣(出演 ラジオ番組「おはよう!ニッポン全国消防団」出演者紹介 …………財団法人 日本消防協会 …17 女性消防団員リーダー会議の内容について ………………財団法人 日本消防協会 …21 「多機能部隊を専属化」 …………………………………………………………………… 埼玉県 坂戸市消防団 団長 栗原 初夫 …23 特別表彰「まとい」を受章して 「安全で快適に暮らせる美しいまちづくり」を目指して 東西南北(大阪府)「自然豊かな貝塚市を守るために| …………貝塚市消防団 団長 西上 博芳 …28 東西南北(栃木県)「市民の身体・生命・財産は自分たちが守る」 ------さくら市消防団 団長 渋井 康男 …30 東西南北(石川県)「地域に密着した消防団活動を目指して」 ·······七尾鹿島広域圏事務組合第2消防団 団長 杉本 茂 ···32 東西南北(兵庫県)「安全・安心のまちづくり | ………………加西市消防団 団長 髙見 光 …34 シンフォニー(富山県)「女性消防団"きらり"」 頑張れ!少年消防クラブ(東京都)消防団操法大会で訓練成果を披露 頑張れ!少年消防クラブ(富山県)「少年消防クラブの活動」 ………城山中学校教諭 豊島 寿郎 …39 『平成23年度消防育英会奨学生懇談会』を開催しました …………財団法人 消防育英会 …40 9月9日は救急の日 ……………………総務省消防庁 救急企画室 …42 消防団の広場(奈良県)「復興への想いをこめて『大和高田』から『陸前高田』へ上

9月の日本消防協会関係行事 編集後記

表紙写真説明

「五百羅漢」

~親の顔を見たけりゃ北条の五百羅漢にござれ…~

いつ誰がなんのために作ったかもわからない五百羅漢。それに答える確かな資料も言い伝え も、何一つとして存在していないのです。この石仏の謎は、あるいは永遠の謎であるのかも知 れません。毎年8月8日に行われる千灯会の風景です。

(兵庫県加西市北条町北条にある羅漢寺の石仏群)

東日本大震災全国消防団報告研修会を開催

平成23年7月30・31日 於ニッショーホール (財)日本消防協会



消防団活動報告



パネルディスカッション

女性消防団員リーダー会議を開催

平成23年7月15日 (財) 日本消防協会



新潟県消防協会に災害対策支援金を交付

(財) 日本消防協会

平成23年7月28日からの豪雨による新潟県内各地での災害活動に従事した消防団員を 支援するため、公益財団法人新潟県消防協会に災害対策支援金を交付しました。



災害対策支援金の贈呈



大雨による土石流(十日町市内)

巻頭言

災害のないまちづくりを目指して

山形県消防協会 副会長 寒河江 輝文 (川西町消防団長)



羽前の国山形県は、東北地方の日本海側に位置し、山形新幹線で東京から約3時間のところです。「さくらんぼ」の全国生産量の7割を占める、四季鮮やかなところと知られています。

日本の百名山に数えられる秀麗な山である月山・鳥海・飯豊・朝日・吾妻・蔵王の山々に囲まれ、米沢・山形・新庄の各盆地から庄内平野をうるおす最上川が流れ、美しい自然にめぐまれた地域です。最上川は、他県に流れ出ることなく、山形県の母なる川です。肥沃な盆地や平野と狭窄部を形成しながら全長229kmにおよび、その豊かな河川環境は動植物や魚類など多様な生物を育んでいます。流域に暮らす人々は約100万人で県人口の8割を占めます。そこには、人の住む集落は市街地と農地や山里などが見られ、自然と人間が調和して存在する風景が広がっております。

江戸時代の俳人松尾芭蕉は、「奥の細道」全行程156日のほぼ1/3にあたる43日間を山形で過ごし、その旅は、出羽三山を目指した「心の旅」であったとも言われるように、古の昔山形県は、日本有数の山岳宗教地月山・羽黒山・湯殿山等があがめられてきました。

全国9位の98万haの県土の面積は、その地勢や江戸時代までの幕藩体制の名残から方言や食べ物など文化も少しずつ異なり、北から庄内・最上・村山・置賜の4つの地域に大きく区分されています。

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震では、我々の仲間を多数失ってしまいました。 自分の家族でさえ行方が分からないにも関わらず、消防団の使命とはいえ、必死に地域住 民の行方を捜索している姿を見て、一時でも 早く発見したい思いがテレビの画面から伝わってきました。このように、災害は複雑化・ 多様化・大規模化しております。災害に的確に対応する消防団活動は、ますます重要視され、消防団に対する期待も大きくなってきます。

そこで、地域における予防活動、広報活動、 救護活動等に女性消防団員の活躍と期待が大 きく寄せられます。県内には306名の女性消 防団員が在籍し、各消防団の実情に応じた活 動を行っておりますが、消防団活性化と団員 の一層の意識の高揚を図るため、山形県女性 消防団連絡会議を開催し、団員相互の情報交 換と研修会を行っています。

現在の財団法人山形県消防協会が公益法人制度改革の施行により、消防協会の運営、活動が柔軟に行うことができる一般財団法人化に向けて、事業を円滑に遂行するため県内7ブロックからによる支部から広く意見を求め、法人移行検討委員会を平成21年度に1回、平成22年度に4回開催しました。主な事活性化等の支援、消防技術の向上、消防職団員・消防団体への表彰及び福利厚生、講習会・研修会の実施及び助成等を行ってまいります。

渡邉茂治山形県消防協会会長の指導のもと会が益々発展し充実して行くことと確信しております。

終わりにこの度の東北地方太平洋沖地震で 多くの消防職団員が犠牲になりました。

ご冥福をお祈りしこの教訓を一生忘れることなく、地域防災の要として活動していく所存です。

東日本大震災全国消防団報告研修会を開催しました

平成23年7月30日(土)及び31日(日)の2日間、日本消防会館において、 東日本大震災全国消防団報告研修会を 開催し、全国から両日共に約600人の消 防防災関係者等が参加しました。

研修会では、極めて厳しい状況のも と災害活動に従事した岩手県、宮城県、 福島県の消防団員等が、生々しい具体 的な活動状況を報告し、あわせて関西 学院大学の室﨑益輝教授の基調講演、 パネルディスカッション(コーディネー ター:NHK解説副委員長 山﨑登氏)等 が行われました(研修会のプログラム 及び講演者については次頁のとおりです)。

研修会参加者へのアンケート調査では、「非常に有意義であった (70.2%)」「有意義であった (28.1%)」を合わせて 98.4%の皆さんから、有意義であったという回答が寄せられました。

なお、日本消防協会では研修会の内容を記録した報告書の作成を予定しています。このことについても、次号以降の「日本消防」また、随時ホームページでお知らせいたします。



研修風景

東日本大震災全国消防団報告研修会演題

平成23年7月30日(土)

演題	講 演 者
講演 「東日本大震災の被害状況及び 消防の活動状況等について」	消防庁 消防・救急課長 横田真二
消防団活動報告①	宮城県 気仙沼市消防団 分団長 村上貴敏
消防団活動報告②	福島県 南相馬市消防団 副団長 長澤初男
消防団活動報告③	岩手県 山田町消防団 分団長 大石秀男

平成23年7月31日(日)

演 題	講演者
講演 「東日本大震災とどう向き合うか」	関西学院大学 総合政策学部教授 室崎益輝
消防団活動報告④	宮城県 名取市消防団 分団長 樋口惠一
消防団活動報告⑤	岩手県 宮古市消防団 分団長 中野規男
自治体防災職員活動報告	宮城県 南三陸町危機管理課 住民安全係長 佐藤智
緊急消防援助隊活動報告	東京消防庁 警防部副参事 五十嵐幸裕
パネルディスカッション 「東日本大震災の教訓を」 これからの防災対策にいかす」	コーディネーター NHK解説副委員長 山﨑登 パネリスト 消防庁 国民保護・防災部長 佐々木克樹 関西学院大学 総合政策学部教授 室﨑益輝 福島県 南相馬市消防団 副団長 長澤初男 宮城県 気仙沼市消防団 分団長 村上貴敏 岩手県 山田町消防団 分団長 大石秀男

「消防団員の処遇改善など活動環境の整備について(要望)」を国に対し要望しました

財団法人 日本消防協会

平成23年8月10日(水)に消防団員の処遇改善等活動環境の整備について、総務大臣に対し要望を行いました。

平成23年8月10日

消防団員の処遇改善など活動環境の整備について(要望)

財団法人 日本消防協会

去る3月11日の東日本大震災は未曾有の大きな被害をもたらしたが、その中で我が国消防は多くの方々に評価されるめざましい活動を行い、地域防災体制の中核としての消防団の重要性があらためて強く認識された。しかし、活動の過程でおよそ250人にのぼるという極めて多数の消防団員の死亡・行方不明という事態が生じた。このようなことは二度と繰り返してはならない。また、このようなことがいまだに減少傾向を続ける消防団員の一層の減少というような消防体制の後退につながらないようにしなければならない。むしろ、今回の震災を経て明らかとなった消防団の重要性がより多くの国民に理解されるようにするとともに、消防関係者は、強い決意のもと、今回の大震災の経験をいかして消防団の一層の充実強化を進めなければならない。

そのためには、消防団の装備・訓練の充実など各般にわたる総合的な施策が必要であるが、今回 は特に次の事項について必要な措置を講じられるよう強く要望する。

証

- 1 当協会としては、平成23年5月10日、東日本大震災に関連して数項目にわたる要望を行ったが、これらについて、引き続き的確に措置されたい
- 2 特に殉職した消防団員のご遺族の生活維持のため、公務災害補償については、一時金及び年金を含めて、完全な支給がなされるよう必要な財源確保をされるとともに、賞じゅつ金については、県及び市町村を含めて該当する者に対して完全に支給されるよう措置されたい
- 3 当協会が自主的な事業として実施している福祉共済事業においては、極めて多数の殉職者が 見込まれるなか種々の可能性を検討したが、現状では万やむを得ない措置として、弔慰金等を 減額するとともに、将来の安定的な運営を確保するため掛金の一時的な改定をすることとした。 これは、消防団員の福祉確保にとってはかけがえのないこの事業を何としても維持するための 非常措置であり、断腸の思いの決定である。次に述べる消防団員の処遇改善については、これ により一時的とはいえ掛金の改定を余儀なくされている実情についてもご配慮頂き、必要な財 西港層を講じられたい
- 4 消防団員の処遇など活動環境の改善は、消防団員を確保し、我が国消防体制をより一層確固としたものにするために是非必要である。報酬のみでなく出動手当などを含む給与の改善、研修、訓練等の活動経費の確保、勤務先企業等の理解向上、女性団員の増加などの変化に対応した消防団詰所の整備など、活動環境の総合的な改善のため引き続き、財政上その他必要な措置を講じられたい

東日本大震災災害活動報告

青森県八戸市消防団 団長 藤田 正次郎



我が八戸市は、今回発生した「東日本大震 災」被災エリアのほぼ北端に位置する、人口 24万人の都市である。

平成23年3月11日、14時46分にまず地震が発生した。市内の震度は5強であったにもかかわらず、建物被害などは幸いなことにそう多くはなかった。しかし、地震発生と同時に市内全域が停電となったことで、その後の災害対応活動や避難者を含む市民の生活に、非常に大きな障害となっていったのである。

一方、地震直後には津波警報が発表された。このことに伴い、市災害対策本部は沿岸部全域に避難勧告を発令した。程無く、15時14分には大津波警報に切り替えられたことから、勧告も指示に切り替えられた。15時22分に第1波として引き波が発生した後の16時57分、津波の最大波は推定4.2メートル以上となり、当市沿岸部一帯を襲ったのである。

この津波による人的被害は、死者1名、行 方不明者1名、また建物被害としては、全壊 217棟、大規模半壊207棟、半壊703棟と記録 された。また、水産関係としては第1~3魚



館鼻岸壁(八戸市新湊三丁目) 打ちあげられた漁船



八戸臨海鉄道北沼駅付近(八戸市河原木字北沼) 北沼橋脇の水道管(露出)が破裂し水が噴き出している

市場や卸売場が軒並み全壊した。岸壁や漁港等に大型タンカーや中型いか釣り漁船6隻が打ち上げられ、また漁業関係施設や漁船が全壊・流出するなど、「水産都市」を自負する当市関係施設の被害は甚大であった。

このような状況の中、我々消防団の活動で特に障害となったのは"電話(加入・携帯)機能の麻痺"と"停電"であった。各屯所では、電話の輻輳により消防本部からの電話による出動指令を受けることができなかった。また、消防無線の受令機(屯所に備え付け)も停電により使用できなかった。当然、テレビ・ラジオ等の情報媒体も同じであった。これらの状況から、各班に自主参集した団員は、災害の状況把握が極めて困難であった。

そこで各班では、車両により管轄区域の巡回を自主的に行うことで積極的に活動の場を求め、地震により生じた崩落や外壁の落下等の危険箇所に対する応急処置及びそれらの場所への住民の立ち入り禁止等の措置、また不安を感じている住民への声がけ、さらには事前に把握している災害時要援護者の安否確認などに従事したのである。

沿岸区域管轄の各班は、津波警報(後、大 津波警報に切り替え。)による避難指示が発 令された後は、避難のための広報と巡回に奮 闘した。津波が間近に迫っていた中で広報を 無視し岸壁等に居続けようとする住民等に対 し、熱意を持って避難を促し続けたのである。 また、沿岸区域の交通の要所となっているよ うな交差点では、地震発生後の停電の影響で 無秩序な通行となっていたことから、津波の 到達ぎりぎりまで交通誘導を行った班もあっ た。

火災は、災害発生の11日から翌12日までに 6件発生しており、そのうち市街地での建物 火災と車両火災の計2件に出動し消火活動を 実施した。また救助については、津波の逃げ 遅れの女性2名を消防車両に収容した事案 と、津波襲来後であったが住宅の2階に取り 残されていた住民1名を確保した事案があった。

また当消防団では、市とタイアップし平素から各分団所轄の災害時要援護者の把握に努めている。今回は特に、避難指示がなされてから津波浸水予想区域の6地区229世帯に対し、消防職員と協力し安否確認及び避難指示の伝達等を行ったところである。津波浸水区域以外の地域でも、各班での車両又は徒歩による巡回の際、災害時要援護者の安否確認は一貫して実施していたところである。

3月も20日を過ぎる頃には、災害の後片付け等の可能となる地域が増えてきた。このことにより、分団(または班)ごとに地元において、浸水家屋等の後片付け、町内支援物資の運搬や配布、瓦礫の後片付け、さらに側溝



鮫漁港 (八戸市鮫島字下松苗場)

の泥上げなどの活動に従事することが増えていた。団員にとっては、災害活動中はほとんど家に帰れていないことは分かっていたので、私としては一刻も早く休養を取らせたかったが、各地元での状況からそうも言っておられず、各団員は4月半ば頃までそれらの事後活動に従事し、地元住民を助けてくれた。私は、災害活動が終息した今でも、そのことを思い出すたび頭が下がる思いである。

凄まじい災害であった。しかし、またいつ あのような災害が起こるとも限らない。我々 消防団は、これから先も常に災害の第一線で 活躍しなければならないと強く心に言い聞か せている。

今回の災害において、当市及び消防団に対してさまざまなご支援、ご協力をいただいた 皆様に心からのお礼を申し上げ、本文の結び とさせていただく。



臨港道路(八戸市河原木字海岸) 車、資材などが流されてきている

東日本大震災災害活動報告

岩手県大船渡市消防団 団長 今野 武義



1 大船渡市の紹介

大船渡市は、岩手県の沿岸南部に位置し、 世界三大漁場を目の前に接する水産業の盛ん な地域です。

平成13年11月15日に、大船渡市と三陸町が 合併し、新生大船渡市が誕生しました。

当地方は、リアス式海岸の美しい海岸線と 国際港湾都市の横顔を持ち、比較的温暖な気 候に恵まれた地域で、風光明媚な自然景観が 楽しめる、景勝地です。

2 大船渡市消防団の概要

昭和27年市制施行と同時に、旧7村各消防団が統合して、大船渡市消防団が結成されました。

平成13年には、大船渡市と三陸町との合併とあわせて、旧大船渡市消防団と旧三陸町消防団が統合、新大船渡市消防団となり、1団本部12分団51部、条例定数1,341人で発足し、平成23年8月1日現在、団員数は1,044名となっております。

3 東日本大震災発生時の活動

平成22年2月28日に南米チリで発生した地震により、県内初の大津波警報が発表され、津波の来襲により当市において甚大な水産被害が発生しました。幸いにも人的被害はありませんでしたが、近い将来発生が予想されている宮城県沖地震に対し、更なる警戒態勢の強化を進めておりました。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、死者、行方不明者440人を超える人的被害や、住宅の全壊・半壊3,818戸、その他多くの建物等の被害は1,051億円となり、当市が想定していた津波被害をはるかに超える甚大なものとなりました。

地震発生直後は、消防計画に基づき団本部



陸中海岸国立公園碁石海岸にある名勝「穴通磯」

員全員(18名)が参集し、団指揮本部を消防署内に設置、各分団は各方面隊において参集し、当日は650名ほどの消防団員が大震災対応の活動を行いました。しかし、活動拠点である消防屯所が22箇所、団車3台が津波で被災し、団活動に大きな支障を及ぼしました。

団本部の活動は、災害状況の情報収集、各分団の活動状況の把握及び連絡調整、沿岸分団においては、市内155箇所の水門・ひ門の閉鎖と避難誘導、大津波来襲後は捜索、救助活動、火災出動及び火災警戒、山手分団においては、沿岸分団への応援と食糧の確保を行いました。

2日目以降の活動は、消防署隊や自衛隊と 合同での捜索救助活動、ガレキ撤去及び街路 の確保、危険物等の撤去、住民の安否確認、 避難所への物資搬送、各避難所からの連絡調 整、被災者への支援活動等を行いました。

団指揮本部は、大船渡市防災部(大船渡消防本部・消防署)を通して大船渡市災害対策本部と連携し情報の共有化を図ると共に、毎日夕方開催される災害対策本部での連絡調整会議に団長が参加して、警察、自衛隊等関係機関との継続した活動強化を図りました。

発生後1週間までは、延べ4,900名前後の団員が大震災に対する活動に当たりました。団本部と各分団との連絡方法においては、一般電話や携帯電話の不通、また、津波災害による膨大なガレキが車両進入を妨げ通行不能状態でしたので、団本部、各分団配備の消防無線を併用すると共に、伝令員を配置し連絡調整の充実を図りました。

また、定期的な団幹部のミーティングを行い、活動状況の把握、活動計画や団員の健康 状態等を確認するなど、消防団全体の意思疎 通を図りました。

4 消防団員の「心のケア」

活動中の多くの団員が、家族や親類を失ったり、津波により住居が流出、全壊、半壊するなどの被災者にもかかわらず、長期間にわたり 凄惨な現場で懸命な活動を行って来ました。

大震災から4箇月が経過し、団員にも専門家チームによる「心のケア」が必要と考え、ボランティア医師団のご支援ご指導のもと、全団員にアンケート調査を実施し、医師の判断により該当団員にカウセリングを行うことでとり進めているところです。

また、ストレスからの健康障害の発生にも、 継続的に配意していく体制を整えて行きたい と考えております。

5 おわりに

大震災発生に伴い当市消防団の活動に対し、県内・外の多くの消防団や退団OB、一般の方々からの心温まる多くのご支援や義援



捜索救助活動する消防団員



大津波来襲の、市内の被災状況

金を賜り、誠にありがとうございました。心 より厚くお礼を申し上げます。

また、同様に被災なされました市町村、及 び消防団に対しまして、衷心よりお見舞い申 し上げますと共に、早期の復旧・復興をお祈 り申し上げます。

未曾有の大震災により甚大な被害を受けた 大船渡市は、ガレキの撤去作業を迅速に進め ておりますが、現在もまだ多くのガレキが残 存しており、改めて災害の大きさ恐ろしさを 痛感しています。

当消防団では、避難誘導や水門閉鎖活動中に、 3名の尊い団員の命が奪われました。

消防団員としての使命感に満ちた3名の 方々の殉職を無駄にしないためにも、活動内 容を検証すると共に、義勇・愛郷の精神と大 震災で得た教訓から学び、防災・減災に向け更 なる消防団活動に努めてまいりますので、当消 防団にお力添えを賜りますようお願い申し上 げ、東日本大震災の活動報告といたします。



津波によって流出した、消防団車両

東日本大震災災害活動報告

宮城県七ヶ浜町消防団 団長 渡邊 初男



平成23年3月11日午後2時46分に発生した三陸沖を震源とする観測史上最大規模のマグニチュード9.0の大地震と、その直後に襲来した巨大津波は、東日本の太平洋側を中心とした沿岸部地域に想像を絶する被害をもたらしました。

七ヶ浜町内においても、震度5強の大地震を観測し、地震発生から約50分後に最大で12メートルを超える巨大津波が沿岸部を襲いました。

この未曾有の大震災の七ヶ浜町内における被害 状況は、人的被害では死者91名、行方不明者5名、 住家被害では全壊が729棟、大規模半壊が243棟、 半壊が217棟、一部損壊が1067棟、その他地震と



大破した消防ポンプ自動車(松ヶ浜地内)



自衛隊と連携し船舶撤去(花渕浜地内)



浸水状況(菖蒲田浜地内)

津波の影響で、港湾、漁港、上下水道、建築物、 道路等を主とした公共施設の流失や損壊、電柱電 線、ガス管等も同様に被災したことにより、ライ フラインが数日間寸断されました。特に津波の浸 水面積は4.2kmであり、七ヶ浜町の総面積13.27kmの 3割以上が浸水しました。

七ヶ浜町消防団に関する被害状況については、消防ポンプ自動車置場兼団員詰所全10施設のうち3施設が津波により流失し、消防ポンプ自動車も全10台のうち2台が大破し、消防団員においても水門閉鎖や避難誘導等の活動中に2名の尊い命が犠牲となり、負傷者も7名を数えました。

この過酷な状況の中、七ヶ浜町災対本部との唯一の通信手段である消防ポンプ自動車の車載無線を生命線とし、様々な活動を行いました。

まず、地震発生直後大津波警報及び町内沿岸部 世帯に避難指示が発令されたことで、いち早く沿 岸部の水門閉鎖と住民に対して避難指示の広報及 び避難誘導を行い、地域によっては自主防災会の 方々と連携し、要援護者の避難介助も行いました。 この時点では地震による犠牲者はいなかったと思 います。

七ヶ浜町災対本部から伝達されていた、当初の 津波到達予想時間(仙台港午後3時10分)を過ぎ ても潮位変化が確認できなかったので、可能な限 り避難広報と避難誘導活動を継続していると、 『強烈な引き潮が確認された!』との情報により 全消防団員も一時高台に避難しました。しかし、 安心できるはずの指定避難場所に避難したのにも かかわらず、想定外の高さに達した大津波は消防 ポンプ自動車を軽々と吹き飛ばす程の凄まじい勢 いでした。団員は何とか津波が引くまでを耐えし のぎ、体制を整えた後、直ちに人命救助を行いま した。流されたが廃材等につかまり奇跡的に助か った人、流出してきた家屋の中から助けを求める 人、負傷して動けないでいる人…。『とにかく一 人でも多く助けたい!』団員は自分の家族の安否 や自宅の状況等の確認は二の次にして必死に行動 しました。

発災から時間が経過するにつれて、各消防ポンプ自動車無線からの報告で被害状況が明らかになり、地元消防署を除く、自衛隊及び警察署等の防災関係機関も被災しており、応援体制の目処が立たないとのことで、まさに孤軍奮闘の状況下にありました。その間にも死傷者の報告数が増えていき、浸水区域の悲惨さと、被災して低下した消防団の機動力だけでは人命救助と行方不明者の捜索は厳しいものでありました。

一方、町内小中学校等に避難してきた住民の中には負傷者や病気による在宅患者が多数おり、消防署の要請や独自の判断により消防ポンプ自動車で病院に救急搬送を行いました。夜になると救急搬送の要請が増えましたが、避難者の協力を得て何とか乗り切ることができました。

また、隣接のJX日鉱日石コンビナート基地内で火災が発生し、敷地内のガスタンクが爆発する恐れがあるとのことで、当該施設から半径2km以内の区域に緊急避難指示が発令され、その避難広報と誘導も行いました。



危険を顧みず流出家屋内を捜索(花渕浜地内)



3.11大津波来襲(菖蒲田浜地内15時50分頃)



行方不明者捜索(花渕浜地内)

今振り返りますと、発災初日から3日目までは 消防団員全員が不眠不休で活動し、食糧も乏しか ったことから、人間の限界を超えていたと思いま す。中には家族が犠牲になっている、あるいは行 方不明である、といった状況でも気丈に任務を遂 行している団員もいて、その心労は計り知ること ができません。

それから何と言っても、今回の活動中に2名の 消防団員が犠牲になったことが痛惜この上なく、 御遺族の悲しみを思うと申すべき言葉がありませ ん。しかしながら、危険を顧みず行動したその不 屈の消防精神は七ヶ浜町の消防史上に長く留めら れ光輝くものと信じております。

最後になりますが、我が七ヶ浜町消防団と同様に被災された自治体の消防団員の方々におかれましても、まだまだ厳しい現実が続くことかと思いますが、消防団活動の本質である「わが町を災害から守る」という使命感を再認識して、どんな困難でも揺るがない強い絆で、確実に前に進むことを共に誓うことで、この結びと代えさせていただきます。

東日本大震災災害活動報告

福島県双葉町消防団 団長 高野 豊実



平成23年3月11日、14時26分、これまで体験したことのない強い大きな揺れが長く続きました。私は仕事でいわき浪江線を走行中でありましたが、強い揺れで走行できず、そのまま停車し、揺れの収まるのを待っておりました。揺れの収まった時点で会社に戻り、直ちに帰路に着きましたが、いたるところで道路が陥没し、やっとの思いで自宅にたどり着くも、散々たる状況にしばし呆然とするばかりでありました。

私の家は、海岸線から6km程西にあり、津波の影響は全くありませんでしたが、海岸部には3つの集落がありますので、津波による被害がどうなっているのか心配で、自転車で自宅から役場対策本部まで向うも、道路がいたる所で陥没しており40分程の時間をかけてようやく辿り着くことができました。

直ちに、現場に向うも、中野、中浜地区の家屋は、津波で全てが流失しており、海岸線から西側に約4km程まで、ガレキ等が押し寄せており、田畑が一面海のような状態となっておりました。



三ノ宮付近津波地震被害

海岸部の住民はすでに避難しておりましたが、その他の地区の住民も、頻発する余震に備えて各地区の集会所に自主的に避難しておりました。

対策本部会議で、中野、中浜地区等で20名程の行方不明者がいるとの報告を受け、あらためて事の重大さを痛感いたしました。避難中の町民への炊き出しを婦人消防隊、社会福祉協議会の応援を受けて行いました。

午後8時50分、原子力発電所の事故により、



前田地区跨線橋上地震被害



新山地区地震被害



双葉海水浴場入口付近



消防職員・警察による中野地区捜索

半径 3 kmに避難指示が出され、翌朝には10km 圏内の避難指示が出されました。このことから、防災行政無線による広報とともに各地区消防団による地区内の巡回、避難広報を行ったところでありますが、避難バスが思うように確保できず、又、道路の陥没等により、各地区へのバスの輸送が困難と判断し、マイカーの相乗りにより川俣町への避難を防災行政無線により呼びかけをいたしました。結果として、国道114号線、288号線を利用しての避難となり、福島市、川俣町、田村市、三春町、郡山市等に分散しての避難となってしまいました。

その後、埼玉県加須市と二次避難先のホテルリステル猪苗代に移動し、現在に至っております。

地震、津波による被害も甚大で、20名程の 行方不明者がいたにもかかわらず、何もでき ないまま避難しなければならず、消防団としての使命を果たすことができなかったことが 非常に残念でなりません。

しかしながら、消防団員からは一人の犠牲 者も出なかったことが幸いでありました。

今回の地震、津波そして原子力災害という 最悪の事態に遭遇し、改めて危機管理の重要 さを認識した次第であります。

現在、双葉郡8町村は、それぞれ避難生活 を送っております。すべての町民が一日も早 く町に戻り生活できることを心より望みなが ら、厳しい避難生活に耐え頑張っております。

最後に、今回の災害で避難所を提供していただきました、県内各地の皆様をはじめ、ご支援、激励をいただきました全国の皆様に、大変失礼ではありますがこの誌上をお借りし、心より御礼申し上げ活動報告とさせていただきます。



前田地区地震被害



中浜地区津波被害

ラジオ番組「おはよう!ニッポン全国消防団」 片山善博総務大臣・松本龍防災担当大臣 出演

財団法人 日本消防協会

片山善博 総務大臣 7月30日又は7月31日放送

アナウンサー 今日のゲストは、片山善博 総務大臣です。よろしくお願いします。

片山大臣 総務大臣の片山善博です。よろ しくお願いいたします。

アナウンサー 東日本大震災が発生以来、 消防団の被災地での活躍が、様々なメディ アを通じて報道されていますが…片山大臣 は、どうご覧になっていますか?

片山大臣 まず、今回の震災により犠牲となられました方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。そして、被災されました方々には、改めてお見舞いを申し上げる次第です。

被災地の消防団の皆様には、3月11日の発災直後から消火・救助活動、避難誘導や 行方不明となられた方の捜索活動など、自 らも被災されている中で懸命に活動してい ただいております。

地域住民のために奮闘いただいておりま すことに、心より敬意を表したいと思いま す。

また、今回の大震災では、未曾有の大津 波等により、消防団員に多くの犠牲者が出 てしまいました。誠に痛恨の極みです。心 からご冥福をお祈り申し上げます。

アナウンサー 改めて消防団の存在やその 役割を認識した人も多いと思いますが…



片山大臣 そうですね。消防団員の皆様が 自らの危険を顧みないで、地域住民の生命、 財産を守るために奮闘されていることがた びたび報じられており、団員に犠牲者がで てしまったことは大変痛ましく、二度と繰 り返してはいけないことでありますけど も、多くの国民の皆様から消防団の意義、 活動に高い評価をいただいているものと考 えています。

また、自分たちの地域社会、地域の安心 安全は、自分たちで守るということの必要 性といいますか、尊さというものを国民が 共有するきっかけになるのではないかと考 えています。

アナウンサー 昨今、団員の減少が続く消防団ですが、今後の取り組みについてどうお考えでしょうか?

片山大臣 消防団の皆様には、日頃から消火や夜回り地域住民への応急手当の普及指導などさまざまな活動をしていただいてい

るわけですが、今回の震災のように、面的 な広がりを持つ災害が生じた場合には、特 に、心強い存在です。

就業形態の変化や過疎化の進展など新入 団員を確保する環境は厳しい状況ではあり ますが、消防団を活性化するためには、若 い世代の方々協力ということが非常に重要 だと考えております。若い方へのアピール、 消防団自体がもっと魅力的になれるような 取り組みを進めてまいりたいと思います。

また、子供たちにも将来消防団に興味を もってもらえるよう、地域の安全を守る消 防の役割を教えるということも取り組んで まいりたいと思います。

さらに、消防団はどうしても男性の仕事と思われがちですが、近年は、多くの女性の方々に入団していただいており、そういった取組も、さらに進めてまいりたいと考えています。

このほか、消防団の魅力の向上のため、 消防団員の皆様の処遇の改善にも努めてま いります。

アナウンサー 今後の消防団に期待すること、そして全国の消防団員に激励の言葉をお願いします

片山大臣 消防団員の皆さま、日夜、献身 的な御尽力をいただいておりますことに、 心から感謝申し上げます。この度の東日本 大震災における被災地の消防団の活動を見 て、消防団に対する地域の方々の期待はま すます高まっているものと考えます。

会社勤めとの両立などいろいろとご苦労 はあろうかと存じますが、是非、地域社会 のために引き続きご尽力いただきますよう お願いいたします。

私としても、総務大臣として、皆様への

ご支援が少しでもできますよう精一杯対応 してまいりたいと思います。

アナウンサー 最後に、全国各地でラジオ を聴いている皆さんへメッセージをお願い します

片山大臣 消防団の活動は、ともに助け合い地域をみんなで守るという信念に基づく活動です。

地域に住んでいる人、働いている人、学 んでいる人。地域に関わる様々な職業や年 齢の「人」と「人」がつながり、みんなが 協力して地域の安心と安全を守っていま す。

消防団を「地域防災の要」として、日本の未来のために、次世代に引き継いで行くことが重要であると考えています。

少しでも多くの皆様が消防団に関心を持っていただけると幸いですし、ぜひ消防団 を応援してくださるようお願いいたしま す。

アナウンサー 「おはよう!ニッポン全国 消防団」、今日は片山善博総務大臣を迎え てお送りしました。

ありがとうございました。



松本 龍 防災担当大臣 7月2日又は7月3日放送

アナウンサー 今日のゲストは、松本龍防 災担当大臣です。よろしくお願いします。 松本大臣 防災担当大臣の松本です。よろ しくお願いします。

アナウンサー 東日本大震災が発生早々、 震災対応をされ、現地にも入られたと言う ことですが、まずは、大臣がこれまでを振 り返っての所感を教えていただけますか? 松本大臣 東日本大震災は、これまでに合 計1万5,000名を超える尊い命を奪い、未 だに8,000名近くの方の行方が分からなく なっています。まず、あらためて亡くなら れた方々の御冥福を心からお祈りし、全て の被災者の方々にお見舞い申し上げます。

震災の発生直後から、政府は自衛隊や警察、消防を始め持てる力を総動員し、被災 自治体と一体となって、救助・救命活動を 実施してきました。

私も防災担当大臣として政府の先頭に立って対応しました。被災の各地にも入り、被害状況や避難所を見て回りました。今回の震災では広範囲に甚大な被害が発生し、多くの方が家を失い、避難所での不自由な生活を余儀なくされることとなりました。

このため、この度特に「被災者生活支援 チーム」を設け、私はチーム長として、被 災者の皆さんの生活支援に全力を挙げてき ました。

今後とも、被災者からの切実な声に真摯 に耳を傾け、皆さんが一日も早く平常な生 活に戻っていただけるよう、あらゆる方策 を講じていきたいと考えています。

また、先日、復興基本法が成立し、近々 復興構想会議からも復興の方針が示されま



した。私も復興担当相に任命され、身の引き締まる思いです。被災地が力強く復興を遂げ、魅力ある地域として再生できるよう、 政府一丸となって努力してまいります。

アナウンサー その中で、地域の防災機関、 特に消防団の活動をどのようにお考えです か?

松本大臣 今回の震災で、被災地の消防団 員は、岩手・宮城・福島で約8万人の消防 団員が活動されています。消防団は、日ご ろからの地域密着性、素早い要員動員力を 生かし、非常に高い即時対応力を発揮して いただきました。

住民の避難支援や災害防ぎょ活動、また 防火・防犯のパトロールを行うなど、地域 の安全確保のために果たす役割は非常に大 きかったと考えています。

今回の消防団の活動に改めて敬意を称し、お礼を申し上げたいと思います。

また、消防団員の方で約250名の死者・ 行方不明者が出たことに深く哀悼の意を表 します。

アナウンサー 今後の防災対策において、 消防団の果たすべき役割は? 松本大臣 消防団は、震災・水害などに対する地域の防災力の中心・中核として、常備消防と連携しながら消火・救助等の活動を行うとともに、大規模災害時等には多くの消防団員が出動し、住民生活を守るために不可欠な役割を果たしています。日常においても、各家庭の防火指導や防火訓練、巡回広報等住民生活に密着したきめ細かな活動を行っており、地域の消防防災の要となっています。

私も防災担当大臣として、今回の震災から得られた教訓を踏まえ、これまでの地震・津波対策の見直しを行うなど、災害対策の充実・強化に全力を尽くしてまいりたいと考えています。特に津波等の災害時には、避難することが重要でありますので、

避難住民の誘導など消防団の役割は今後ますます重要になってくると考えています。 アナウンサー 最期に、全国で活動している消防団員の皆さんにメッセージをお願いします。

松本大臣 消防団は、今後ますます地域における消防・防災の中核的存在として、地域住民からも高い期待が寄せられていると思います。私もその役割を果たし、活躍されることを大いに期待させていただきます。

アナウンサー 「おはよう!ニッポン全国 消防団」、今日は松本龍担当大臣を迎えて お送りしました。

ありがとうございました。



ラジオ番組「おはよう!ニッポン全国消防団」 出演者紹介

財団法人 日本消防協会



平成23年2月放送分に 出演の消防応援団 眞鍋かをりさん

2月5日又は2月6日放送



川崎市宮前消防団 副団長 吉田 義一さん

眞鍋かおりさんの素敵な声を聞いて緊張しましたが、楽しくお話しをすることができました。 今後も川崎市宮前消防団は団結し、宮前区の防火防

今後も川崎市宮前消防団は団結し、宮前区の防火防 災に頑張ってまいりますので、消防団への応援をよろ しくお願いします。

2月19日又は2月20日放送



新居浜市消防団 班長 古味 昌美さん

災害にあわれた方々に心からお悔やみとお見 舞いを申し上げます。

これからも学習精進し、後輩を育て、地域に 貢献したいと思います。

2月12日又は2月13日放送



有田市消防団 団長 **嶋田 浩平**さん

眞鍋かをりさんから、若いエネルギーをいただき楽しく対談することができました。 これからも、地域に密着した消防団員の育成に尽力 したいと思います。

2月26日又は2月27日放送



八幡東消防団 分団長 **内村 美由紀**さん

ラジオ番組出演ということで非常に緊張していましたが、眞鍋かをりさんや山本アナウンサーが上手にリードしてくれたので、大変楽しく対談することができました。今後も地域の消防団員として、消防団員確保アドバイザーとして、消防団情勢の向上に尽力していきたいと思います。

平成23年3月放送分に 出演の消防応援団 沢田亜矢子さん



3月5日又は3月6日放送



東京都 町田市消防団 団長 五十嵐 忠さん

女優の沢田亜矢子さんとお話するまでは、少し緊張 していましたが、沢田さんが和やかな雰囲気でインタ ビューをしてくださいましたので、リラックスして町 田市消防団の事を、お話しすることができました。 この放送を聴いた方々の中から消防団に興味を持 ち、町田市消防団だけでなく、全国の消防団に入団を 希望される方が、1人でも多く現れれば幸いです。

3月19日又は3月20日放送



滋賀県高島市消防団 分団長 川島 清治さん

今回、多機能型車両を頂き誠に有難うございます。 団員一同、器具機材を活用出来るように訓練に励みた いと思います。

是非高島市に観光に寄って頂きたいと思います。

3月12日又は3月13日放送



岐阜県土岐市消防団 分団長 清水 良枝さん

大変緊張しました。大女優の沢田亜矢子さんと対談 させて頂き、とても光栄です。

土岐市消防団女性団員の活動内容をうまく伝える事 が出来たのか不安ですが、とても良い経験をさせて頂 き、ありがとうございました

3月26日又は3月27日放送



世羅団消防団 団長 地森 博さん

我々消防団員は、火災による消火活動だけでなく、 災害対応や行方不明者の捜索、1人暮らしや高齢者の 方の確認等、いろいろな活動をしています。 こうした活動は、普段の地域との連携により、情報

を確保することも、自成の地域との建筑により、情報を確保することも大切です。 小さな町の消防団なので、地域の各役員を兼ねている団員が多く、その活動の中で人と人とのつながりを 大切にしています。



4月9日又は4月10日放送



兵庫県丹波市消防団 分団長 **徳田 まゆみ**さん

ラジオ放送という事で、大変緊張致しましたが、水 前寺清子様とも、お話が出来、二度とない経験をさせ て頂き、感謝しております。

4月16日又は4月17日放送



那覇市消防団 副分団長 **仲里 直興**さん

今回のラジオ収録を終えて、各地で頑張っておられる消防団員をはじめ、多くの方々の震災復興へ向けての努力を、あらためて、実感いたしました。 一日も早い復興を願っております。

早い復興を願っております。 また、水前寺清子さんと、実際にお話させていただいて、水前寺清子さんの温かい人柄に触れることが出来ました。有難うございました。

これからも地域を守る、消防団員として、頑張って いきたいと思います。

平成23年4月放送分に 出演の消防応援団 水前寺清子さん

4月2日又は4月3日放送



香川県高松市消防団 団員 西川 正晃さん

昔から、よくテレビで見ていた水前寺清子さんに話しかけられて、ただただ緊張しました。 現在、東北の被災地で頑張っておられる消防団の人 たちにエールが届けばうれしいです。

西川 倫弘さん (息子さん)

ラジオで話すことなんて初めてだったので、とても 緊張しました。うまく話せなくて少し残念でした。

4月23日又は4月24日放送



南アルプス市消防団 部長 地森 朋章さん

今回は、貴重な経験が出来ました。 水前寺さんとも親しくお話しが出来ました。 自分の経験が他の団員のためになれば嬉しいです

平成23年6月放送分に 出演の消防応援団 ^{柏原芳恵さん}



5月28日又は5月29日放送



熊本県美里町消防団 団員 森口 千代美さん

「緊張しましたが、無事に終わってホッとしました。 テレビでしか見たことのない柏原芳恵さんとお話が出 来てとっても嬉しかったです。ラジオから自分の声が 聞こえてくるのが楽しみです。本年度も全国大会に出 場できるよう操法訓練頑張ります。」

6月11日又は12日放送



京都府八幡市消防団 団長 西村 忠雄さん

消防団はすばらしいボランティア活動です。地域の守りの要として、厳しく、楽しく、そして人に頼られる消防団をつくりたいです。

6月19日又は6日20日放送



石川県輪島市消防団 副団長 北岡 周治さん

柏原さんとの電話対談では、ドキドキして終始あがりっぱなしてした。もっといろんな話が出来ればと思いましたが、楽しい時間を過ごすことが出来、本当にありがとうございました。今後の消防団活動の励みとなりました。

6月4日又は6月5日放送



神奈川県葉山町消防団 分団長 瀬谷 正彦さん

柏原よしえさんと山本元気さんと楽しいお話しができ感激しました。 葉山町消防団のPRに少しでもお役に立てれば幸いです。

6月25日又は6月26日放送



山口県由布施町消防団 団長 小川 雅己さん

山本アナウンサーの良い間のとり方と、柏原 芳恵さんの気さくな話かけで、リラックスして 話ができ、楽しい時間でした。

収録が終わって、消防団員としての自覚と、 地域の人たちと一緒になって、地域を守り、発 展させ、住みよい地域づくりをしたい、との思 いが一層強くなりました。

女性消防団員リーダー会議の内容について

財団法人 日本消防協会

平成23年7月15日(金)日本消防会館において、女性消防団員リーダー会議を開催いたしました。全国の各ブロックから16名の女性消防団員の方に出席をして頂き、東日本大災害の体験も踏まえた大災害への対応、女性消防団員の役割などの課題や問題点について、活発且つ有意義な意見交換が行われました。主な意見等は、次のとおりです。

なお、この会議には、消防庁防災課長、 静岡県、香川県、鹿児島県の消防協会長、 髙梨成子氏(防災&情報研究所 代表)及 び小出由美子氏(NHK部長)にも出席し て頂き、会議中アドバイスを頂きました。

1 災害時における女性消防団員の役割について

【東日本大震災時 の状況等】

○ 防災無線や電 話が通じず、消 防団内部の連絡 がつかない状況 になった。

> 災害時の連絡 体制の見直しが 必要だと感じた。

○ 原発事故の避 難者の対応を行 った。

子供達、お年寄りといったようなサポートが必要な方々と、その他の避難者の方とを振り分けて避難先を選定した。

行政は手が回らず、乳児のミルクの確保にも苦労した。商店街の協力や防災無線での呼びかけで物資を徐々に確保した。

1週間余り炊き出しを行い、避難者及び支援活動に従事している方々への食事の対応を行った。食材もない状況だったが、地域に米はあるのでおにぎりの炊き出しになった。

- 地震により住宅のガスが自動停止した お宅への、復旧作業のサポートを行った。
- 移動手段も連絡手段もなくなるので、 無線を常備させてほしいと要望している。【一人暮らしの高齢者等要援護者への対応】



- 近所の人々が把握していて安否確認出来るように地域でネットワークを設けている。
- 各地区の消防団員が自分たちで名簿を 作り、一人暮らしの高齢者等の情報を把 握している。
- 民生委員は情報を出してくれない。 (個人情報の保護の関係)
- 命が大事だと言えば民生委員も協力してくれる。

【災害時の活動】

- 災害時の活動については、応急手当や 炊き出しを行っている。
- 東日本大震災の発生を受けて、災害時の 対応を話し合い、炊き出し訓練、煙体験訓 練、バケツリレー訓練等をおこなった。
- 自分たちが要望して出初式に炊き出し 訓練を行った。
- 東南海地震が懸念されているが、住民 の一人一人まで危機感が行き渡っていな い。
- 防災教育に活かすため、地震等の災害 時の行動をまとめたマニュアルを確立し たらいいのではないか。
- 高齢者施設では災害時の避難が困難な ので、消防団員の協力があればいい。

2 女性消防団活動の取り組みについて 【主な活動について】

- 広報活動や救急講習の指導が中心。保 育所や小学校へも出向いて行っている。
- 応急手当を一部の男性団員にも指導している。
- 住警器の普及、地震や水難事故をテーマとした寸劇を行っている。
- 高齢者宅への防火訪問を行っている。

- 水防訓練に参加し、土嚢積み訓練を行っている。
- 最近では、火災現場に出動し、後方支援を行うようになった。
- 小型ポンプ操法訓練を行い、女性でもできることをアピールした。
- 男性のチームに交じって操法大会に出場し、入賞した。

【仕事や家庭の両立について】

- 仕事があったり、子供が小さかったり して平日の活動が無理な団員もおり、参 加者の調整で苦労している。
- 家庭や職場の理解がないと活動が難し い。

【運営上の工夫等】

- 団員の年齢層が幅広いので、意見がば らつく状況が多い。各団員の家庭や仕事 での置かれている状況や、各年代での考 えをそれぞれ尊重して調整している。
- 入団時に面接を行っている。その際、 体力が必要な活動もすることを説明している。
- 危険物丙種の資格、応急手当の普及員 の資格、ヘルパーの資格の取得を目指し ている。現在では、団員全てがヘルパー の資格を取得している。
- 女性消防団の存在を認識してもらうため、地元で開催されるアドバルーンの大会に活動服で出場し、アピールした。
- 女性団員の訓練を増やす方向で考えている。
- 参加しなくてはいけない活動等を義務付け、指導している。
- 県や市町村で女性消防団員活性化大会 を実施し、それぞれの活動の紹介や、意 見交換会を実施している。

「多機能部隊を専属化」

埼玉県 坂戸市消防団 団長 栗原 初夫





集合写真

坂戸市消防団多機能部隊は、平成20年12 月に(財)日本消防協会から「消防団多機 能型車両」を交付されたことを契機に発足 し、地元分団の消防団員と多機能部隊を兼 任する隊員で編成していた部隊を、平成22 年度からは専属隊員として再編成し、各種 災害現場でその機能をフルに発揮するため、 車両整備及び訓練を日々実施しています。 今年度は、新たな隊員も加わり専属隊員7 名で消防団活動にあたっています。

【坂戸市消防団多機能部隊資機材取扱い訓練】

平成23年7月3日、気温30℃を超える猛暑の中、多機能部隊資機材取扱い訓練を実施し ました。この訓練は、平成22年9月に埼玉県消防学校にて開催された総務省消防庁による 「消防団員救助資機材取扱い講習」を受講した隊員2名を指導者として、資機材操作時の注 意点や操作方法等、基本訓練及び応用訓練を用いた総合訓練を行い、習得技術の伝達及び 部隊隊員の技術の向上を目的として実施されました。

【基本訓練】

・油圧器具(手動式油圧カッター)及びエンジンカッターを使用してのパイプ切断訓練 切断時には、二次災害などの発生に留意し、切断可能なパイプであるかどうかを確認 するとともに、油圧式とエンジン式の違いに注意しながら訓練を実施しました。





エンジンカッタ

・チェーンソーを使用しての倒木切断訓練



チェーンソー

台風などの風水害時には倒木が道路を塞いでしまう場合があります。倒壊家屋からの救出作業でも、チェーンソー等の切断器具は大変重宝されます。しかし、操作方法をひとつ間違えればキックバック現象などにより大きな事故にも繋がることから、基本操作を重視した訓練を行い、その後に立ち木の切断方法と挟み込みが起こる場合の切断訓練を体験しました。

【応用訓練】

基本訓練終了後、廃車両を使用しての応用訓練を実施しました。車内には1名の要救助者がいるという想定で、油圧器具及びエンジンカッターを使用し、車両右後部ドアを開放して救出するというものです。訓練では要救助者の気持ちを体験するため、人形ではなく、隊員自らが要救助者役を行い、二次災害に備えての警戒筒先を配備し、周囲にも注意をするなど、実戦さながらの応用訓練を実施しました。



説明

訓練手順及び操作時の注意事項、使用する資機材にも様々な種類があることを説明し、操作時の安全確保や周囲の状況確認に留意して、基本訓練を重視し訓練を実施するよう隊員に指導しました。エンジンカッター使用時、車内に閉じ込められている要救助者を気遣うということはどのようなことか、実際に体験することで助ける側と助けられる側の違いを体験することができました。



切断訓練



要救助者

【今後の取組及び課題】

現在、専属多機能部隊として7名で活動していますが、大規模災害発生時には、消防団 員全員が資機材を活用でき、いざという時、自ら考え行動できるよう訓練を重ねていくこ とが必要です。いつ起きるか分からない災害、いざを今に変える力をつけられるよう、 個々の知識と経験を積み重ねていくことがこれからの課題であると考えます。

【教訓】

「知識や技術は継続して磨いて行かなければすぐに忘れてしまうものであること。」

今回、訓練を通じて忘れていたことを思い出すことができました。指導する側であれば こそ、学ばなければいけないことが沢山あるのだと再認識することができました。

これからも習得した技術を錆びさせないよう、また後継者を育てて行けるような様々な訓練を重ねて行く所存です。

時間	多機能部隊訓練概要	
8:50	多機能部隊員集合及び機械器具・資機材の整備(準備)	
9:10	開会式 (集合整列)	
	基本訓練 講師(安全員):消防団員救助資機材取扱い講習受講隊員	
(1) 救助資機材取扱い訓練(エンジンカッター、チェーンソー、油圧器具		
9:20 (2) 救急資機材取扱い訓練(AED、四つ: (3) 消火資機材取扱い訓練(可搬ポンプ)	(2)救急資機材取扱い訓練(AED、四つ折り担架)	
	(3) 消火資機材取扱い訓練 (可搬ポンプ)	
10:20	休 憩 (10分間)	
応用訓練 講館	応用訓練 講師(安全員):消防団員救助資機材取扱い講習受講隊員	
ア 油圧救助器具(手動式油圧カッター)によるドア隙間の拡張		
	イ 切断器具(エンジンカッター)によるドアの切断	
10:30	ウ 衝撃破壊器具(ストライカー)によるドアの開放	
	エ 救急資機材(四つ折り担架)による要救助者の救出搬送	
	オ 消火資機材 (可搬ポンプ) にての救出救助活動中の警戒筒先の配備	
	カ その他(夜間想定による投光器設営)	
11:20	閉会式	
11:30	撤収・資機材整備(清掃)終了後、解散	



特別表彰「まとい」を受章して

「安全で快適に暮らせる 美しいまちづくり」を目指して

愛媛県愛南町消防団 団長 鷹野 正志



愛媛県の最南端に位置している愛南町は、南宇和郡の旧5町村(内海村、御荘町、城辺町、一本松町、西海町)が平成16年10月1日に合併して誕生しました。「愛南町」という町名には、愛媛県の南に位置し、ここに住む人たちが町を愛し、地域や人を愛して、みんなが仲良く助け合って、元気な町になって欲しいという願いが込められています。

愛南町は、南は黒潮躍る太平洋を望み、 西は豊後水道に面している自然環境に恵ま れた地域です。南宇和郡の北部には四国山 脈から分岐した一本松地域の篠山支脈があ り、ここから発っする僧都川の流域に平野 部が開け、この平野部に御荘地域、城辺地 域の市街地が形成されています。

また、内海地域、御荘地域、城辺地域及 び西海地域の海岸部は足摺宇和海国立公園 に面し、自然豊かな恵みを受け水産業や観 光事業に恩恵を受けています。気候は、四 季を通じて温暖で、梅雨期には雨が多く南 海型気候の特色をもっています。

今世紀前半に発生する可能性が高いと言 われている東南海・南海地震において、愛 南町は地震が発生した場合に、著しい地震 災害が生じる恐れがあるため、地震防災対 策を推進する必要がある地域として、全域 がこの推進地域に指定されています。また、 近年地球温暖化などの影響もあり、襲来す る台風の大型化や異常な集中豪雨などによ る風水害被害も増大しており、このような 災害から、かけがえのない生命と財産を守 るために、自助(町民一人ひとりが自分の 命は自分で守る)、共助(地域町民が連携 して地域の安全はみんなで守る)、公助 (行政が災害に強い地域の基盤整備を進め る)の3つを防災対策の柱とし、これらの 連携を強化し町民が一丸となって災害対応 能力の向上を図っています。

愛南町消防団は定員1.122名、本部と5



ポンプ操法



夏季訓練



火災予防運動

方面隊で構成される18分団によって、町民の生命、身体、財産を災害から守るという使命達成に努めているところであります。その一方、高齢化とともに進む過疎化や連帯意識の変化などにより、消防団員の活動が極めて重要となり、その団員確保が課題となっています。

しかし、社会経済の発展とともに発生する災害は、大規模・多様化し、年ごとに厳 しさが増しており、町民のみなさんから寄 せられる防災の任を預かる消防団への期待 はますます高まっていることを肌で感じて おります。

その期待に応えるべく、春と秋には火災 予防の呼びかけを行い町民一人ひとりの防 火意識の普及を図り、夏季訓練、新入団員 訓練、夜間中継放水訓練などの各種訓練を



消防出初式

実施し、要員動員力及び即時対応力などの 消防団特有の機能性を高めるとともに、あ らゆる災害に強い安全なまちづくりのた め、町民と行政が協働して災害に即応でき る実践的かつ効率的な体制を整備しており ます。また、地域の防災リーダーとして消 防団を取り巻く環境、地域の特性に十分配 慮した分団統合を図り、地域の自主防災組 織との連携を図っております。

いつ起こるかわからない災害に対する備 えを考えると、自分たちの町は自分たちで守 るという自助の活動が大変重要となります。

まといを受章した消防団として、今後と も地域防災の要として、あらゆる災害にも 即応できるよう心身の鍛錬に努め、崇高な 消防精神と強い責任感のもと、献身的な活 動に努めます。



夜間中継放水訓練



「自然豊かな 貝塚市を守るために」



貝塚市消防団 団長 西上 博芳

1 貝塚市について

貝塚市は総面積43.99km。人口9万人余りで大阪府の南部に位置し、大阪市中心部と和歌山市中心部のほぼ中間にあって、北側は大阪湾をいだく白砂青松の二色の浜、南側には国の天然記念物に指定されたブナ林がしっかりと根付く緑豊かな和泉葛城山を眺め、東側は岸和田市、西側は泉佐野市・熊取町に接し、大阪平野に続く和泉平野の中央を占めています。

大阪中心部へは南海本線、JR阪和線によってそれぞれの所要時間はおおむね30分、また関西国際空港にも近く、阪神高速道路湾岸線、阪和自動車道、国道26号線及び空港連絡道に囲まれ、市内には市民の足として欠かせない水間鉄道に並走して貝塚中央線が縦走するなど、道路・交通網にも恵まれた都市と自然が共存する街です。

また、市内に点在するかのように歴史や 伝統文化が数多く残されており、千本搗き



出初式

で賑わう新西国三十三箇所観音霊場の水間 寺や、国宝の観音堂を有する孝恩寺があり、 願泉寺を中心に形成された寺内町の街並み など歴史の香りが漂い、緻密な彫り物や豪 華な装飾が施された太鼓台を担いで練り歩 く『ふとん太鼓祭』、豪華なだんじりが勇 壮に駆けめぐる『地車祭』には多くの団員 たちも参加しており、郷土愛に満ち溢れた 魅力ある街です。



願泉寺



二色の浜

2 貝塚市消防団について

貝塚市消防団のその歴史は古く、明治22年4月、町制施行に伴い貝塚町消防組が発足し、昭和14年4月に警防団令の発令によって貝塚町消防組が廃止され、貝塚警防団が結成されました。

勅令第185号により貝塚警防団を廃止し、昭和22年4月、6個分団8個班体制の定数215名による貝塚市消防団が発足し、その後、第7分団、第8分団が相次いで分設され昭和27年、最後の第9分団が増設されて、団本部と第1分団から第9分団の9つの分団から構成される、団員定数250名の貝塚市消防団が確立されました。

各分団の器具庫には、消防ポンプ自動車と可搬ポンプがそれぞれ配置されており、 貝塚市消防本部(消防署)と連携し各種災 害に備えており、その活躍が認められ平成 21年には『大阪の消防大賞』に選ばれまし た。

3 消防団の活動

主な年間行事としては1月には消防出初式、文化財防火デーに伴う消防訓練、3月には春の火災予防運動に伴う街頭キャンペーン、6月には幹部団員講習会、9月には貝塚市と共催の防災講演会、11月には消防署・消防団合同消防訓練、秋の火災予防運動に伴う防火広報、街頭キャンペーン、12月には歳末火災特別警戒など、市民と融合した積極的な活動を繰り広げ、各分団においては毎月の定例訓練(走行訓練、水利調査など)など市民の安全・安心のため、日夜自己研鑽に励んでいます。

また、災害発生時は、管轄分団のサイレンを吹鳴すると同時に、本団員ならびに管轄分団員に対し、順次指令によって災害種別、災害地点が自動音声で連絡され、災害点地図がFAXで分団器具庫に送信される



出初式



操法訓練

万全の体制を整え、被害の軽減を目指し、 初動体制の迅速化に力を入れています。

4 おわりに

先日の東日本大震災により、消防団員を はじめ亡くなられました方々のご冥福をお 祈り申し上げます。

また被災された皆様、そのご家族の方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。

貝塚市におきましても東南海、南海地震に起因する津波等の大規模災害が予想され、防災に対する市民の関心が今まで以上に高まっており、改めて消防団の必要性が再認識され、その期待も益々大きくなっております。

今後におきましても、市民の信頼、期待に添えるよう団員の資質向上、団員の確保など、より一層の努力を全団員で重ねていきたいと思います。



「市民の身体・生命・財産 は自分たちが守る」



さくら市消防団 団長 渋井 康男

1 さくら市の紹介

平成17年3月28日に氏家町・喜連川町の2町合併により誕生したさくら市は、人口約4万4千人、総面積125.46kmで、栃木県の中央部やや北寄り、県都宇都宮市の北東に隣接し、県北西から南東に貫流する1級河川鬼怒川の東側で、関東平野北端部の平坦な水田地帯と、関東平野と那須野が原台地との間の数条の丘陵部を範囲とする地域です。交通網は国道4号・国道293号が交差し、JR東北本線・東北新幹線・東北縦貫自動車道が通過しており、温泉をはじめ、丘陵の緑、清流等の豊かな自然、城下町や宿場町としての歴史や、ゴルフ場などの豊富な観光資源を有し、首都圏からの手軽な観光地として親しまれております。

また、2010全都市住みよさランキング(東 洋経済新報社)においては、全国809市区中 42位(栃木県内 2 位)に位置し、自然と都市 機能のバランスがとれた市であり、過去 6 年 連続で人口増加率が栃木県内 1 位となってお ります。(2005国勢調査41.383人→2010国勢調



夏季点検



消防操法訓練

查速報值44,774人、8.19%增加)

2 消防団の概要

平成17年3月28日の合併と同時に、さくら 市消防団として新た発足しました。市合併に よる旧両町消防団の早期融合を図るため、1 消防団、8分団、定員435名の組織としまし た。

また、各分団を統括するため、正副団長直轄の本部(本部長1名、副本部長2名、本部次長10名、本部部員14名)役員を配置し、災害現場や各種訓練におけるスムーズな団活動ができる体制としています。

さらに、平成21年度より女性消防団員4名 を採用し(本部付け)、防火防災活動の普及 啓発活動等に従事しています。

装備については、指令車2台、照明車1台、 消防ポンプ自動車17台、小型動力ポンプ積載 車7台を配備し、有事の際の出動に備えてい ます。

3 消防団の活動

消防団の活動は、4月1日の辞令交付式及び定期総会において年間行事を策定し、この計画に基づき各種事業を実施していきます。主な事業は、夏季と秋季の点検事業、消防ポンプ操法競技会、水防・火災防御訓練や火災等予防活動です。なかでも、消防ポンプ操法競技会においては、県大会や全国大会出場を目指し、各操作員とも日々資質向上に努めているところです。

また、災害対策活動にも積極的に出動しており、特に平成23年3月11日発生の東日本大震災では、さくら市においても震度5強を記録し、地震発生直後には、停電復旧作業が続く中、市内に開設した避難所へ照明施設や支援物資を運搬し、避難者への支援活動を実施しました。停電が復旧した3月12日には、各家庭の安否確認や被災状況把握に市内全域を巡回、土砂災害危険箇所に亀裂や崩壊が確認されると、直ちに土嚢を大量作成、応急復旧工事業者へ情報と資材を提供するなど、被災した地域のために昼夜を分かたず献身的な活動を実施しました。

更に同日、さくら市の観光名所の一つである「お丸山公園」近辺の土砂災害危険箇所に大規模な亀裂が確認されたため、その日より非常時における緊急態勢が整備され、消防団は近隣住民安否確認、避難誘導及び消防署員が実施する救助活動の補助を担っており、6月12日に行われた避難訓練においては、非常



お丸山被害(亀裂)



避難訓練

時同様に活動を実施しました。

4 おわりに

われわれさくら市消防団は、「市民の身体・生命・財産は自分たちが守る」という郷土愛を胸に、日頃から訓練を積み重ねておりますが、社会環境の変化により団員確保が難しくなってきており、サラリーマン団員は8割を超え、日中における出動団員数は減少傾向にあります。これらの課題に対処するため、本市消防団としても、広報や自宅訪問等による勧誘はもちろんのこと、女性や学生の勧誘を積極的におこない、市職員・県職員の消防団への採用も推進しております。

今後も、諸々の行事を通じて地域住民とともに災害に強いまちづくりを進めるとともに、地域防災の中核を担う組織として、市民の負託に応えられるよう全団員一丸となって消防団活動に励んでまいります。



お丸山被害(建物倒壊)



「地域に密着した 消防団活動を目指して |



七尾鹿島広域圏事務組合第2消防団 団長 杉本 茂

1 中能登町の概要

第2消防団が管轄する中能登町は平成17年3月1日、旧鳥屋町・鹿西町・鹿島町が合併し発足しました。町は能登半島のほぼ中央に位置し、奥能登の中心都市である輪島市や県都の金沢市、富山県都である富山市からそれぞれ約50kmの位置にあり、高速交通体系の整備により、各都市からの位置的な環境としては良好な立地条件であるといえます。また、東側に石動山、西側に眉丈山が連なる丘陵地からなっており、面積89.36km、人口約19,000人の町です。

中能登町の基幹産業は、農業のほか石川県内最大の繊維産地が築かれてきましたが近年繊維産業については諸外国から安価な製品が輸入され、農業についても生産者の高齢化や米価の低迷により非常に厳しい状況ではあるものの、平成7年には大型ショッピングセンターが建ち来店者数が年間約300万人と、能登地区最大の商業地域となっております。また平成25年には旧3町が統合した中能登中校の開校、近年住宅団地の造成と、かつての「田園・繊維の町」の面影を残しつつ新しい町づくりが進められています。



消防団連合訓練大会

2 消防団の概要

七尾市が市制を施行する昭和14年までは鹿島郡七尾町であり、殊に消防業務に関しては、消防組当時から七尾鹿島消防団連合会として、一旦火災等の災害が発生した場合の相互応援は計画のもとにその行動が行われるなどの緊密なものでありました。

そこで、七尾市及び鹿島郡6町(田鶴浜町、 鳥屋町、中島町、鹿島町、能登島町、鹿西町) が、広域市町圏の広域行政として消防事務の 一元化を断行し、昭和46年4月1日に七尾鹿 島広域圏事務組合消防本部、同消防署及び消 防団が発足しました。

これは、常備、非常備ともに広域消防として、従来の市町消防体制を解消し、圏域内1市6町をもって1消防本部、2消防署、5分遣所、3消防団、29分団を置き、消防体制の確立を期することにしたものです。その後、平成の大合併で1市3町が七尾市に、3町が中能登町となっても管轄区域は変わらず第2消防団は主に中能登町を管轄し、団員定数93人(実員数92人うち女性消防団員5人)、1本部5分団の組織をもって活動を行っております。

消防車両等については消防ポンプ車は各分 団1台を配置し、団員詰め所には待機室を有



消防団連合訓練大会



土のう積 訓練

し、水防資材の保管場所としての機能を備え ており災害に即時対応できるよう警備態勢を 整えております。

3 第2消防団の活動について

我消防団の活動としまして、出初式を皮切りに、文化財防火デーに伴う防火訓練、春・秋の火災予防運動期間中の広報活動や火災防御訓練、消防団ポンプ車操法訓練大会、小中学校等に出向き消防団への理解と親睦を深める為の交流会を実施したり、各分団とも月に1度の機械器具点検及び地水利点検や火災予防を呼びかける広報活動、年末の火災を防ぐため警鐘をならしながら地域を巡回する特別警戒とまだまだ行事は沢山あり年中忙しいですが充実した活動を行っております。

特に4月からのポンプ車操法の訓練は早朝から分団が一同に介し訓練に励む光景は中能登町の初夏の風物詩として定着しています。 その成果もあってか地区大会では常に上位を独占しています。

災害出動では、火災発生時はもちろんのこ



小学生との交流会



初期消火訓練指導

と、住民の生命・身体・財産を守るため、近 年多発するゲリラ豪雨による災害が懸念され るなか被害を最小限に食い止めるための水防 訓練にも積極的に参加し中能登町地域住民が 安心安全に暮らせるまちづくりのため日夜取 組んでおります。

4 おわりに

消防団は常備消防と共に活動するとともに、特に自主防災活動の中で、消防団独自の住民に密着した活動を展開しております。特に消防団はコミュニティの中核であり、消防団はさまざまな地域活動のリーダーであると思います。

昨今消防団員不足が全国的に叫ばれるなか、消防団がいきいきと活動している地域社会こそ、住民が安心して暮らせると思っております。消防団員も量より質で勝負していかなければならない今こそ皆が協力し合い地域住民から信頼されるような存在であり続けられるよう団員一丸となって日々精進していきます。



中学生との交流会



「安全・安心のまちづくり |



加西市消防団 団長 髙見 光

1 加西市の概要

加西市は兵庫県の中央に位置します。播 州平野の北側の位置にあり、北部には山地 が多く、南部は、広大な平野と丘陵からな っています。県下では最も晴天の多い地方 の一つで、温暖な気候と肥沃な土地に恵ま れ農業が盛んであり、穀倉地帯として米の 生産量も有数の地域です。

加西ぶどう「ゴールデンベリーA」は、広く京阪神に出荷されているほか、小麦、大根、トマト等の生産も盛んです。工業は、家電製品製造業、金属製品製造業、また、市内4箇所にある工業団地に企業誘致も進み、昨年、世界に誇るリチウムイオン電池の工場、「加西グリーンエナジーパーク」が稼動し始め、市の活性化への期待が高まっています。

また、観光・文化では、日本最古級の



訓練礼式大会

「古法華石仏」、謎の石仏群「五百羅漢」など石造文化財の宝庫として全国的に有名です。県下でも早くから生活の営みが始まった所であり、市内の各所の遺跡からは、石器や住居跡、300基にものぼる古墳や塚、石仏など当時の貴重な文化財が数多く残っています。法華山一乗寺は西国霊場第26番札所として有名で、国宝三重塔は県下最古の木造建築物です。所蔵する文化財は質量共に県下第一で、建築物、彫刻、絵画、仏像などを網羅しています。

このように、歴史的に貴重な文化財に加え、野山、900箇所に点在するため池、のどかな田園風景などの豊かな自然環境に恵まれており、多くの観光客が訪れています。

2 加西市消防団の概要

昭和14年4月1日、加西市の前身、旧加西郡に、1町10村で、11団115分団、消防ポンプ自動車1台、手引き動力ポンプ46台、腕用ポンプ66台、団員3,560名で、警防団を編成して消防業務を行っていました。昭和30年1~3月に北条町・加西町・泉町にそれぞれ消防団ができ、昭和42年4月1日に、北条町、加西町、泉町の3町の合併により加西市誕生と同時に1市1団を組織し、加西市消防団が12分団104部2,699名で発足しました。

現在は、12分団103部団員定数1,482名で組織され、消防ポンプ自動車2台、小型動力ポンプ付積載車88台、小型動力ポンプ12台、各部に器具庫を有し、防災の要として活動を行っています。

3 加西市消防団の活動について

消防団活動としましては、4月に挙行する「消防大会」から始まります。市民会館に団員800名を集め、各関係団体よりの来賓を迎え、団長の訓示に続き、各団員の表彰、辞令交付等、厳粛のなかで、消防団員としての士気の高揚を高めます。また、同月に「部長・新入団員・水防訓練及び機関員を集め、消防署員の指導のもと、部長には指揮・号令のかけ方、新入団員には、各個訓練・ホースの取り扱い、機関員には、ポンプの取り扱いを指導します。また、水防訓練では、各種水防工法を実施すると共に、約1000個の土嚢作りを行い水防時に備えます。

6月には、「消防操法大会」と「訓練礼式大会」を隔年で行い、特に全国でもめずらしく、県下唯一の「訓練礼式大会」では、各分団より約30名で組織された部隊で、通常点検及び部隊訓練を行い、各分団の団結力と統制を図っています。また、8月の市主催の花火大会には、花火警備を行い、防火に努めています。

11月には、一斉非常演習・防火宣伝パレード、消防署と合同の林野火災訓練、12月には、年末火災特別警戒、1月には、重要文化財防火訓練、2月は、林野火災中継訓練と、いかなる災害がおきても迅速、的確に活動が出来るよう訓練を実施しています。

また、AEDが各学校や各施設に多く普及してきたため、消防団員も普通救命講習の受講に積極的に取り組み、市民救命士として活躍出来るようにしています。その他、毎週の各部での資機材の点検整備はもちろんのこと、年5回の分団長会議、各分団の部長会議を通し、全団員が「安全・安心なまちづくり」に励んでいます。

4 おわりに

加西市消防団の今年の目標は、「予防消防」を揚げています。当市では近年増加傾向のある火災件数を、少しでも減少できるよう、各分団が各地域での防火活動に専念しようと、意思統一を図っています。

今後も「安全・安心のまちづくり」のため、消防団が地域防災の要としての役割を果たせるよう、更なる鍛錬に励み、地域住民から信頼される消防団であり続けることに、努めていく所存です。



法華山一乗寺国宝三重塔防火訓練



シンフォニー (富山県) 「女性消防団 "きらり"」

富山県小矢部市消防団 女性分団 分団長 嶋田 幸恵

出火率20年連続全国最小記録達成の富山県!その富山県の西の玄関口と言われているのが、私たちが住んでいる小矢部市です。

城下町、寺のまちとして栄えた石動、古 代ロマンにあふれる桜町、砺波山源平古戦 場、四季折々の美を彩る散居村など豊かな 自然と歴史や文化にあふれています。また、 地上118メートルのクロスランドタワーや メルヘン建築物などユニークな施設も数多 くあります。

小矢部市消防団女性分団は、平成17年に 全国女性消防団員活性化大会が富山県で開 催されることになり、その時に結成された 分団長以下18名です。結成の際に親しみやすいように分団の愛称を"きらり"とし、きらりとひかる活動をしようとスタートしました。

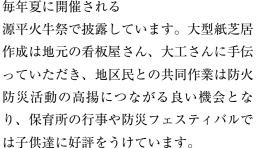
地域イベント・保育所、高齢者活動の場での防火防災の普及啓発活動、応急手当普及員の資格を取得して、応急手当、AED使用の普及並びに消防署等の主要行事への運営補助・参加という3つの活動目標を掲げ、20代から60代までの団員が定例会等を通じ活動内容を決めております。先に取り組んだのは、住宅火災警報器設置普及です。各地区の公民館祭、防災訓練に行かせてい



た警性を内し率ま消い質ケまらた警性、実毎でアし防た間ーしまながきとだに行も、え査又者でに行め、を登調をとだに行も、え査又者ののたて、なと行加り実1間ののがさい、なと行加り実1間ののがありませばでのではでのとし

には、手作りの小箱 を作りキャンディを 入れて持参し、団員 に親しみを持ってい ただくよう努めまし た。

私達が独自で考案 したのが、拍子木を 使った踊りと火災予 防等の広報用大型紙 芝居です。衣装を揃 え、火の用心の拍 は、 な使った踊りは、 毎年夏に開催される



新しい活動として、応急手当普及員の資格を団員が取得し消防職員と共にアシスタントとして市民対象の救急講習へ参加し応急手当の普及にも努めています。

当市には、夜高行燈祭という一大行事があり私達団員で火災予防の標語を題材とする行燈を作成し地域活動への参加も兼ねて 火災予防の広報活動を実施しています。

私達の分団は結成してからまだ、約7年ですが一番大切にしているのは団員同士の結束です。結束を固める為、定例会では体力錬成も兼ねての3B体操の実施、他市の女性分団との交流会などを実施し意欲向上に努めています。又、消防団活動は家族の理解や支援がないと続きませんので、団員の活動のお知らせを兼ねて、予定をハガキ



で出しています。団員一人一人が家族との コミュニケーションも大切するよう心がけ ており、先日、家族が団員活動を自慢げに 話していたと聞き大変嬉しく思っています。

最近、団員の様子をみていますと家庭と 仕事がありながら、消防団活動に取り組み、 時間の使い方が上手くなってきたなあと感 じますし、行事に参加しても凛とした態度 で堂々と活動に取り組んでいる姿をみて大 変心強く思います。

全国的にも消防団員のサラリーマン化に よる団員の減少など消防団が抱える問題は 多々ありますが、少子高齢化などの社会状 況の変化の中で、災害が発生した時の傷病 者に対する「心のケア」など、女性分団員 ならではの活動が求められています。

これからも男女共に協力して出来る消防活動の中で、力まず女性の視点を大切に団員が一丸となって歩む小矢部市らしい"きらり"と光る消防団活動に励んでいきたいと思います。

頑張れ! 少年消防 クラブ

No.41 秋川消防少年団(東京都) 消防団操法大会で訓練成果を披露

秋川消防署 防災安全係 久保木 律子

秋川消防少年団は、平成23年6月5日 (日)に開催された、あきる野市消防団操 法大会において訓練の成果を披露しまし た。

緊迫した雰囲気の中で行われた消防団の 操法大会を見学した後、小学生団員は消火 器による初期消火訓練を、中学生団員はD 級軽可搬ポンプ操法を披露しました。大会 を終えた消防団員が消防少年団員の周りに 集まり、掛け声や拍手で大きな声援を贈ってくれる中で、日頃の訓練の成果を大いに発揮できました。

多くの方々の前で訓練を披露するのは初めての経験でしたが、緊張しながらも訓練 どおりに実施でき、大きな拍手をいただい たことで、緊張により強張っていた消防少 年団員の顔は自信に満ちた表情に変わって いました。



頑張れ! 少年消防 クラブ

No.42 富山市立城山中学校少年消防クラブ(富山県) 「少年消防クラブの活動」

城山中学校教諭 豊島 寿郎

城山中学校少年消防クラブでは、2年生 3名が『社会に学ぶ「14歳の挑戦 | 事業 の一環として、婦中消防署で5日間職場体 験活動をしてきました。職場体験活動では、 体力養成に始まり、小型動力ポンプを使っ た揚水作業体験、ホース延長訓練、放水訓 練、心肺蘇生法等を教えてもらいました。 生徒の感想の中に「ホース延長訓練が心に 残りました。始めはホースがカーブしてい って、うまくできなかったけれど、何回か 繰り返すうちに、だんだんまっすぐいくよ うになりました。|「毎日やった体力養成は とても辛かったけれど、体を鍛えないと消 防署の人はいざというときに力が発揮でき ないと思うので、大切だと改めて感じまし た。」などがありました。

職場体験活動が終わり、2週間後の避難

訓練で、全校生徒の前で3名がホース延長 訓練と放水訓練を行いました。消防署の方 に教えていただいた通り、きびきびと行動 し、大きな声で訓練を行うことができまし た。また、男女20名でバケツリレーをしな がら消火訓練を行いました。最初はなかな か上手にバケツリレーをすることができま せんでしたが、隣の人との距離を考えたり、 向きを交互に変えたりすることで、最後は スムーズにバケツリレーをすることができました。

火災の避難訓練では毎年、他にも煙中体験や、消火器を使って初期消火体験を実施しています。全校生徒353名が全員で活動することは難しいですが、様々な体験活動を行ったり、見たりすることで、防災意識が高まることを実感しました。



『平成23年度消防育英会奨学生懇談会』 を開催しました

財団法人 消防育英会

7月28日、7月29日の2日間にわたり、北海道、東北、関東、及び中部地区の小学校2年生から高校3年生までの奨学生14名、保護者等関係者12名、道府県の消防協会担当者と事務局あわせて総勢45名が参加して東京都内で『平成23年度消防育英会奨学生懇談会』を開催しました。

1日目は、日本消防会館に集合し、会館の屋 上にある全国消防殉職者慰霊碑に参拝しました。



全国消防殉職者慰霊碑に参拝

その後、バスで、東京タワーを間近に見ながら、「日本科学未来館」へ向かいました。 毛利 衛さんが館長を務める「日本科学未来館」では、大きな地球の模型を眺め、最先端の科学技術を見学しました。(宇宙ステーションの居住区のコーナーがあり、宇宙飛行士の生活も紹介されています。)

特に、地球の模型では、今年の3月11日に 発生した東日本大震災による津波が世界にど のように広がったかを再現しており、参加者 のみなさんは、真剣に見学されていました。

夕方 6 時からは、宿泊ホテルの会場で奨学 生懇談会を行いました。



日本科学未来館において



岩田常任参事のあいさつに始まり、2009年7月に開催された「ヨーロッパ青少年オリンピック」のDVDを鑑賞しながら、子どもたち・保護者の方々がいろいろ情報交換し、最後にビンゴゲームなどを行い、楽しく和やかな雰囲気のもとに終了しました。

2日目の「東京ディズニーランド」での課外研修では、夏休みということもあり、たくさんの人出でしたが、皆で記念撮影の後、バザール前のピノキオやドナルドのキャラクターの出迎えに歓声を上げていました。

また、お目当てのアトラクションに向かう



岩田常任参事あいさつ

子どもたちや、シンデレラ城などに見とれている親子もおられました。当日は、あいにくの曇り空の雨交じりのお天気でしたが、一日中、皆で楽しんでいただきました。

きっと、夏休みの良い思い出になったこと でしょう。



東京ディズニーランドにおいて



懇談会の様子

昨年度までは、小学生と中学生及び保護者で懇談会をおこなっておりましたが、今年度は、高校生までを対象とした結果、高校生3名の参加があり、参加者からは、なかなか同じ境遇の方々と話をする機会がないことを残念に思っていたので、今回参加できて、大変嬉しかったとの感想をいただきました。





競輪補助事業完了のお知らせ

この度、平成22年度の競輪の補助金を受けて、下記の事業を完了いたしました。

記

1 事 業 名 平成22年度 青少年の育英補助事業

1 事業の内容 奨学金の支給

(今年度は、大学生 24名・高校生 26名・中学生 29名・ 小学生 31名、合計110名の奨学生に対し奨学金を支給した)

1 補助金額 14,304,000円 1 完了年月日 平成23年3月4日

平成23年3月4日

財団法人 消防育英会 会 長 高 木 繁 光

9月9日は救急の日

総務省消防庁 救急企画室

1. 「救急の日」及び「救急医療週間」とは

「救急の日」は、救急医療及び救急業務に対する国民の正しい理解と認識を深め、救急医療関係者の意識の高揚を図ることを目的に昭和57年に定められ、以来、毎年9月9日を「救急の日」とし、この日を含む1週間(日曜日から土曜日まで)を「救急医療週間」としています。この期間には、全国各地において消防庁、厚生労働省、都道府県、市町村、全国消防長会、社団法人日本医師会、日本救急医学会、その他関係機関の協力により各種の行事が開されています。

2. 「救急の日」及び「救急医療週間」実施の重 点事項

具体的な行事の内容については、各都道府県において関係機関と協議のうえ定めることとしていますが、その実施にあたっては、次の事項に重点を置いています。

- (1) 救急法の普及啓発
- (2) 救急医療システム及び救急搬送システムの紹 介と適正な利用方法の普及啓発
- (3) 救急医療関係者、救急隊員等の表彰及び研修

3. 救急医療週間に行う主な行事

(1) 救急功労者表彰

毎年9月9日の「救急の日」にあわせて、救急



緊迫感あふれる東京消防庁救急隊の実演

業務の推進に貢献のあった個人又は団体に対し消 防庁長官が表彰を行います。

(2) 「救急の日2011」

消防庁、厚生労働省、日本救急医学会及び日本 救急医療財団の共催により9月9日(金)、10日 (土)の2日間、有楽町駅前広場において「救急 の日2011」を開催します。

今回は、救急車の適正な利用方法について普及 啓発活動を行うとともに、東京消防庁による救急 救命士の特定行為を含んだ救急救命処置訓練の実 演、AED(自動体外式除細動器)の使用を含む 心肺蘇生法を中心とした応急手当の実演や実技指 導、パネルを利用した救急医療システムや救急搬 送システムの紹介などを行います。

4. おわりに

今年も全国各地で種々の行事が行われますが、これらの機会を通じて応急手当の重要性を国民の皆様に再認識していただき、救急業務に対する理解が深められることを期待するとともに、各種広報媒体を有効に活用し、救急車の利用状況をはじめ、救急業務の実態を正確に情報提供することにより、国民の皆様の「救急車の適正な利用」に対するご理解とご協力が得られることを期待しています。



特別アトラクションゲストの市井紗耶香さんも応急手当を体験

第20回全国女性消防操法大会 記念 T シャツを販売します

第 20 回全国女性消防操法大会が横浜市で開催されることを記念して、大会記念 T シャツを作成いたしました。 バックプリントには、今年 3 月に起きた東日本大震災からの早期復興の思いを込め、操法を行なう女性のシルエットを力強く表現したデザインとなっております。

また、左胸には消防のイメージキャラクター「消太」を、左袖には操法大会のシンボルマーク、右袖には全日本 消防人共済会の火災共済キャラクターを入れ消防をアピールしております。今回しか手に入らない限定品となって おりますので、是非記念としてお買い求め下さい。

詳しくは(財)日本消防協会のホームページ(http://www.nissho.or.jp)をご覧ください。





■ウエアサイズ表			単位: cm
サイズ	◎身幅	3 着丈	
S	48.0	65.0	
М	50.0	68.0	
L	53.0	71.0	
XL	58.0	75.0	

■ T シャツのサイズは左記の表を参考にして下さい。 ※T シャツは男女兼用のサイズです。 550

名物团員





おいらせ町消防団 百石第10分団 班長

福田美子

女性だけで構成されている分団、百石第10分団の福田さんは、消防団での 階級は班長ですが、地域の演芸「部長」として親しま

階級は班長ですが、地域の演芸「部長」として親しまれています。その知名度は、他分団幹部にも「よしこちゃん」の愛称で呼ばれるほどで、一昨年に開催された青森県女性消防団員活性化大会でも、10分団員を率

いて見事なスコップ三味線を披露してきました。

分団のムードメーカーとして、先輩や後輩から頼りにされており、百石第10 分団を引っ張っていく存在です。



加東市消防団 団長

常峰登

常峰団長は、昭和57年に24歳で入団され、昨年4月から団長に就任され ました。

屋根瓦店を経営されており、腕の良さと人柄で地域の多くの方々に広く 親しまれ、また幹部や他の団員からも信頼されています。

太鼓の腕前は秀逸で地元和太鼓「水龍会」の一員で、太鼓の名手として なくてはならない存在となっています。

「腹に響く音とリズム、バチを通して伝わってくる感触、太鼓を打っていると気分変快になり、 仕事の疲れも吹っ飛びます。」とのことで、消防団活動の活力の根源になっているようです。

小矢部市消防団 副団長

金谷忠

消防歴45年「せんべえ屋さん」の愛称で地元消防団員はもとより、老若男女問わず幅広い年齢層の地域住民から親しまれる富山県小矢部市消防団副団長の金谷忠さんを紹介します。

お菓子作り一筋の人生歴の持ち主で「おせんべい処かなや」を営み、全国菓子博覧会名誉大賞を受賞した「源平柴舟」などを筆頭に市民だけでな

く全国各地で愛されるお菓子を求め日々研鑚に励んでおられます。

その傍ら、永年の消防団活動や生業で培われた職人魂を遺憾なく発揮し、団員への指導にも「礼に始まり礼に終わる」のごとく挨拶や礼儀、規律に関しての精神は人一倍厳しく、他の団員の模範となり大きな信頼を受けています。

今後とも、消防魂+職人魂を後世の団員に伝承していただき、地域防災のみならず、地域活性 化の頼られるリーダーとして大いに活躍されることを期待されています。

上田市消防団丸子第3分団 団員 (バイク隊責任者)

中村 研佑

中村団員は、かつては、道なき道を走り険しい山を乗り越える四輪クロスカントリーラリー全国大会関東地区チャンピオンに輝いたこともあるレーサーでした。現在では一線を退き大会運営をサポートしながら大好きな車との

触れ合いを楽しんでいます。中村団員は操法訓練を日々側面から支えています。仕事は市内のガス屋さんに勤めていますが、職場の理解があり火災等有事の際は、仕事中でも誰よりも早く現場に駆け付けます。レーサーで培った機動力と直感で安心安全な地域を守るべく消防団活動に励んでいます。







山

庫

県

長野

大森 宏一

石

Ш

持ち前の何事に対しても人一倍真面目で熱心な性格なため、病院職員を本業としていますが、消防団員が本業か病院職員が本業か分からないほどです。

特に将来の地域を担う子供たちの育成については、消防団活動を通して殊更情熱を注いでいます。大森さんの提案とお世話から始まった、地元の小学校と消防団との交流会は今年で12回目を数え、子どもたちが消防車に触れたり、放水体験、消火器体験など消防団員の指導で行っています。

また、中学校との交流会、そして保育園との交流会も毎年行っています。

消防団員のなり手不足が言われていますがボランティア精神旺盛な

若者が沢山育ってくれる事を願って来年の企画を練っています。

北九州市小倉北消防団 第3分団 班長

金ヶ江 芳彦

1995年、走るよりも転がった方が早そうな一人の男性が小倉北消防団に入団しました。彼は特技のアコーディオンで、高齢者との昼食会では防災指導を交えながら、その腕前を披露しており、最後の曲は決まって彼のオリジナル曲「我ら消防団」

で締めくくります。

平成22年に、日本防災士機構が認定する『防災士』の資格取得を機に、一層、防災に関する勉強に励んでおり、今回の東日本大震災で、子ども達が「現場判断」で指定の避難場所よりも高台へ避難したことが功を奏して無事だった事案に感動し、今後、子どもたちの力を信じ、一緒に学んでいきたいと話しています。

鶴岡市消防団 鶴岡第1方面隊 団員

坂東 陽水

通常の消防団活動の他に、伝統ある「鶴岡市消防団まとい隊」の一 員として、各行事でその勇壮なまとい振りを披露し、住民への防火思 想の普及啓発を図ると共に、団員の士気を鼓舞しています。

また、本業の米作りの傍ら、JA鶴岡青年部委員長として、農業を取り巻く各種の課題に仲間と一緒に取組み提言したり、小学生に農業の大切さを教授するなど、様々な場面でその手腕を発揮しています。

今後も、消防団や地域のリーダーとしての活躍が期待されています。

大和高田市消防団 第9分団 分団長

東 利作(あずま としなお)

大和高田市消防団からボランティア活動、福祉活動に活躍されてる 第9分団長の東 利作さんを紹介します。

東分団長は、20年前にボランティア団体『青葉会』 を立ち上げ、会員35名の会長として、県障害者スポー ツ大会ボランティア参加、地域の子供会の補助、盆踊

り、秋祭りの応援、学校の奉仕活動等、幅広く活躍されております。

また、大和高田市知的障害福祉祭りにボランティア参加をしながら中学校の格技場を借りて、会員並びに女性や子供達と和太鼓、チャンゴ練習し、福祉祭り、老人福祉施設慰問、町内の祭り、仲間の結婚式、その他にも依頼があれば無料で出演されています。



山形県

示良県

45

「復興への想いをこめて『大和高田』から『陸前高田』へ」 大和高田市消防団 団長 髙木 康廣

大和高田市は奈良県の北西、奈良盆地 の南西に位置し、面積16.49kmの狭隘な市 域ながら、7万1千人の人口を擁し、古 くから交通の要衝の地として栄え、地形 は、北部の馬見丘陵の一部を除き全市域 がほぼ平坦であり、逆三角形の市域を、 大和川支流、高田川、葛城川の二河川が 南北に貫流し、これらの自然堤防の微高 地に市街地が形成されています。

大和高田市消防団は、本部及び12個分 団からなり、団長以下192名の団員と消防 ポンプ自動車11台の陣容により、日夜災 害活動に従事しています。

この度の東日本大震災における大震災 に加えて福島原発事故というまさに未曾 有の災害にみまわれた被災地・被災者の 皆様には心よりお見舞い申し上げます。

大和高田市消防団としても、被災地の 復旧・さらには復興へとできる限りの支 援をと、本年4月3日と10日の2週にわ たり、本市さくらの名所である大中公園 において消防団員による義援金の募金活 動を行いました。

義援金は、2日間で407.288円集まり、 各分団の活動費からの支援金12万円と合 わせて、527.288円を復興への想いを込め て岩手県陸前高田市消防団に送金いたし ました。



桜まつりで義援金活動



吉田市長に報告

平成23年度 全国統一防火標語

消したはず 決めつけないで もう一度

9月の日本消防協会関係行事

9月6日 (火)

9月12日 (月) ~20日 (火)

9月下旬

日本消防協会役員会議(正副会長会議、理事会) 消防団長等幹部海外事情調査(ヨーロッパ) 消防育英会役員会(評議員会、理事会)

編集後記

残暑なお厳しき折柄、皆様如何お過ごしのことでしょう。震災以降の省エネ・節電の流れはそのままに、 天候不順と酷暑の夏がいまゆっくり過ぎ去ろうとしています。しかしながら暑さは夏本番の厳しさのままで、 まだまだエネルギーの無駄遣いを戒めながらの日々が続きそうです。今夏のこのような傾向と努力は、この 先の私たちの生活に必ずやプラスになると信じて毎日を送ろうと思います。

さて、7月30・31日の両日には日本消防会館に於きまして東日本大震災全国消防団報告研修会が開催され、全国より2日間に亘り約600名の消防防災関係者等が集まり、実りの多い研修会が実施されました。今回は未曾有の災害の極めて厳しい状況下で活動に従事した岩手、宮城、福島各県の消防団員等が、生の声による意義深い報告を行い、合わせて関西学院大学の室崎益輝教授の基調講演、パネルディスカッション「東日本大震災の教訓をこれからの防災対策にいかす」をテーマに活発な議論が交わされました。参加者へのアンケートでも98.4%の方から「有意義であった」との回答をいただきました。今後はこの場であがった課題や方針を大切に、現実と向き合い、難局に対応してゆこうと切に思います。

まだまだ暑い日が続きますがくれぐれもご自愛いただき、尚一層活動に精進されることを心よりお祈り申し上げます。 (T.M)

購読募集

購読を希望される方は、া日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2.388円

(問合せ先) 総務部企画担当 03-3503-1481

寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受付しています。

soumu@nissho.or.jp

成成刊 一十三年八 日 印 発 東京都 本消 刷 行 集 電話 〇二 所 所 人 月月 九十日発行 〇三(30) 部港区虎ノ 第六十四 電話本 財 話(383) 本印 3833 日 一門 本 \blacksquare (A) 六九七一(代) 日 朴 株 式 会 社 神田六—三—三 几 四八一九 消 防 知 代十六 協 也

消防人の火災共済の補償が増額されました

「1000倍補償を1500倍補償にUP」

(加入口数は5口から25口まで)

10口の場合 掛金1000円で 火 災 共 済 金 100万円を150万円に増額しました。 風水雪害等共済金(全損で)20万円を30万円に増額しました。 『掛金は、500円~2,500円(500円単位)で加入できます。』

『加入口数は、最高200口』

火 災 共 済 金 2,000万円を3,000万円に増額しました。 風水雪害等共済金(全損で)400万円を600万円に増額しました。

- ※ 風水雪害等共済金とは、これまで災害見舞金としてお支払いしていたものです
- ※ 加入にあたり、組合員となっていただくために出資金が必要になります。

生活協同組合 全日本消防人共済会

事務局 (財)日本消防協会内

支 部 都道府県消防協会内

消防互助

『消防の仲間が支える互助年金』

消防互助年金制度は、(財)日本消防協会が消防職団員等の 安定した老後の生活と福祉の向上のために第一生命保険相互 会社と締結している拠出型企業年金制度です

ホームページでも詳しく紹介しています



耳より情報

消防互助年金について、詳 しくご理解いただくために、 担当者が説明に伺います。 都道府県消防協会を通じて ^{お申し}込みください。

「互助マル君」

加入申込みは消防事務担当へ

- ●各市町村の消防事務担当係
- ●都道府県消防協会

(日本消防協会ホームページ)

- ●財日本消防協会 年金共済部
- ●生活協同組合全日本消防人共済会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16 日本消防会館 TEL.(03)3503-1481~5 http://www.nissho.or.jp

R100